

# 寄稿・教育基本法改正案

中嶋嶺雄 国際教養大学長

与党の教育基本法改正案がまとまった。国会提出に向けた政府、与党の動きが注目されるが、焦点の「愛国心」などについてどう見るか。中嶋嶺雄国際教養大学長に寄稿してもらった。

教育基本法の与党改正案があったりしたことは、最大の争点だ。を知らず、一種の言葉を使った教育目標の「愛国」の遊びに終始した感が「心」について、「伝統あり、自民党と公明党と文化を尊重し、その妥協の産物である。これらをほぐしてきた」とは否めない。

我が国と郷土を愛する 私自身も中央教育審議会ととも、他国を尊重 議会の教育基本法特別し、国際社会の平和 委員会のメンバーとして発展に寄与する態度で約四カ月の集中審議を養つこと」として三月には中教審答申を出したのだが、それから三年もたつて今回またとまった文言と、中教に思われるが、「国」審答申の「日本の伝統は統治機構を意味しな・文化の尊重、郷土や」といった不可解な前 国を愛する心と国際社

## 戦前と異なる時代環境

会の一員としての意識に苦しむことが多く、の「涵養」という文言を 自民党は自民党で小泉比べてみると、七十回 政権への国民的負託にも非公明で議論を続け 堂々と応えるのでなた上での結論だといふ、公明党のイデオロギと協賛協議の不毛な中ギに卑屈な妥協を身が透けて見えるよう たとの印象がぐえなな気もする。

本 当に日本の将来を もっとも中教審自 考え、教育の危機を論 体、一部のマスコミや 説明するのどう訳す、特にグローバル化 時代錯誤的な反対論者 のだろうか。 時代を見据えた人材育 を意識して、私個人の 確かに「愛国心」と 民主主義が制度的に保

# 「愛国心」なぜ避ける

成の在り方を具体的に 意見とは異なり、「愛 いう言葉は、ナショナ 証されている時代と、 討議したのであろう 国心」という用語は避 リズムと同様に感情的 戦前のファシズムの時 か。そのような本質論 けたのであるが、本来 価値を伴う厄介な概念 代の「愛国心」とは、 はそっちのけで、ある はこの点も再検討すべ ではないが、亡き清水 その時代環境が根本的 種の固定観念や党派性 きであらう。第一、愛 幾太郎氏が早くも一九 になつてはいる。個人



中嶋嶺雄さん

「愛国心」の健全な発露だと言ったのは、米コロニア大学の歴史学教授カールトン・ヘイズであったが、その名著「ナショナリズムについての評論」は一九二六年の出版であり、まさに両大戦間の平和な時代のことであって、ファシズムや軍国主義とは無関係だった。わが国は戦後一度も戦争をせず平和に徹してきて、「愛国心」という言葉を用いたからといっていささかも問題がないと私は思っている。それをあえて避けているところに、政治の欺まんを感じざるを得ないのだ。

にとらわれ、結局は三 国心にはパトリオティ ズム(patriotism)という国際的 いていたように、個人の などの独裁国家が唱え 協したのではないか。 に共通の言葉があるの 自覚と民主主義を欠い ている場合には大いに きく違っている。 特に、少数与党であ に、「国を愛する心」 困った存在になるの 「郷土への愛」を愛

なかじま・みねお 東大大学院修了。東京 外国語大学教授、同学長 を経て公立大学法人 国際教養大学理事長・学 長。1936年、長野 県生まれ